

Book Review

Evidence & Technique NiTi ロータリーファイルを効果的に使う 実践歯内療法

阿部 修 著



Reviewer

丸森英史 Hidefumi Marumori
(神奈川県・丸森歯科医院)

A4 判変型, 160 頁
定価 8,820 円
(本体 8,400 円+税 5%)
医歯薬出版刊



著者の阿部修先生は、要介護高齢者の口腔清掃がインフルエンザ発症の抑制に繋がる可能性を示した研究 (Abe S, Ishihara K, Adachi M, Sasaki H, Tanaka K, Okuda K. Professional oral care reduces influenza infection in elderly. *Archives of Gerontology and Geriatrics*. 2006; **43** (2): 157-164.) で明確なエビデンスを作られた方である。その阿部先生がテクニックとエビデンスを結びつけた歯内療法の書籍をまとめられた。

『歯界展望』に連載されているときから、考察の面白さで毎回楽しみに拝読していた。今回はそれに新たな症例を追加して加筆され、書籍化されたとのことである。

書名には「NiTi ロータリーファイルを効果的に使う」と副題をつけられているが、内容は GP の行う歯内療法の各ステップに対する深い考察に満ちている。教科書的な記述ではなく、臨床からの問いを立て、その問題解決をエビデンスも参考にしながら探っていく内容である。

その問いの立て方が面白い。とにかく見過ごされやすい基本的な問題点、た

とえば機械的・化学的清掃は本当にできているのか？ 薬物は根尖まで届いているのか？ まずは感染源の除去……等々、「治療のステップが適切に行われているのか？」を深く追求している。なぜ治らないのかとの問いに対して「実際の手技など臨床的なところ」に多くの問題点があると指摘している。その解決策を、読者にもできそうな実験を基に押さえどころを提示している。

細かな気配りが歯内療法の成功率を高めるとの阿部先生の主張には説得力がある。とにかくテクニックの話題に終始しやすい歯内療法である。薬剤、器材等を次々に変えては治療効果を高めようとする前に、まずは足元をもう一度見直そうという主張である。堅実な著者の考え方に共感できる。

この臨床を見つめる視点は、すべての臨床での手技に応用できそうである。自分のもつ技術や集中力を必要な所に十分注ぐためにも、技に溺れないようにすべきであり、機器の進歩を有効に取り入れることを勧めている。航空機のパイロットとしての職を経て歯科の道に進まれた経験から、結果的にはそれがヒューマンエラーによる事故を避

けることにつながるとの主張である。進歩を取り入れる大事な視点である。

ラバーダム防湿や器材の滅菌に対する配慮も初学者には熟読してもらいたいところである。細菌学の領域で実績を積まれた研究姿勢が、そのまま臨床に反映している、とても奥の深い書籍である。

予防の大切さは誰もが認めるところであるが、臨床において抜髄や感染根管治療が少なくなっているとは思えない。私が歯科医師としてスタートした時代の技術習得の第一歩は根管治療であった。その状況はまだ続いているようである。

私の所属する横浜歯科臨床座談会でも、歯内療法の話題は繰り返し取り上げている。臨床の基本としての歯内療法の重要性は、まだ続きそうである。さてこの書籍を得て、深まる臨床の先に展開される討論が楽しみになる。

歯内療法の基本を現在の学問レベルで見つめ直す、必読の書と考える。歯科医師の臨床手技の基本として、またさらに歯内療法のレベルを向上しようとする歯科医師に一読をお勧めしたい。